**≪令和5年度「箕面支援学校での体験」代替措置課題・学修報告レポート【聴覚】≫**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **氏名** | **山本　雄大** | **学部学科** | **理学部数学科** | **学籍**  **番号** | **04A21051** |

|  |
| --- |
| **１．学修の成果**  ※「聴覚障害児の教育課程及び指導法」の学修を経て自らが学んだことや考えたことを600～800字程度で記述してください。  聴覚障害教育における中でもとくに自分の取得しようとしている算数・数学について関心をもちました．資料にあるように聴覚障害の特別支援学校では，規則に習熟しさえすれば機械的に処理することのできる四則演算などの計算においては取り組みやすく，好んで得意に成りやすいが，聴覚障害によるために日本語の読解の困難を伴うため文章題が嫌いになりやすいということでした．この理由のため，文章題が苦手であるということを仮定すると数学の本質である論理を追うということに対しても高いハードルが存在するのだろうと考えました．また，小学校から中学校・高校と進むごとに単なる計算より，証明などの論理的思考力を養うような分野や問題の量，割合ともに増加するので進学するごとに困難が増していくのだろうと考えました．また，聴覚障害児の言語発達のファイルにもあるように視覚的に対象や行為がわかり，日常的によく使用する具体的な言葉は獲得しやすいが，視覚的に対象や行為を示しにくい抽象的な言葉は獲得が困難であるとあり，数学は抽象化へ向かうのでその点でも壁が立ちはだかると思いました．そのような抽象的な言葉に対峙したとき，国語の指導法に様々な場面をとりあげてそれをイメージできるようにすることが重要とあるが数学の場合，その抽象的な概念，言葉の具体例になっているものをいくつかとりあげてイメージできるようにすることだと考えました．  **２．将来の展望**  ※上記の学修成果を教職に就くに当たってどのように生かしていくかを600～800字程度で記述してください。  聴覚障害が存在しない場合，通常周囲の音や音声を聞きながら話すという自分で音をつくり，その発音した音を自分自身で聞き取りフィードバックを行うことで通常，言葉の鎖と言われる聴覚と音声が相互に作用しあって機能して，3歳くらいまでに自然なコミュニケーションのなかで基礎的な言葉を獲得しているということを知らないうちに行っているが，聴覚障害がある場合，そのサイクルが自然と起こらないのということを意識しなければならないと感じた．また，聴覚障害の特別支援学校において校外学習にタブレットPCを用いて，見学地のガイドの方からワイヤレスマイクを通じて学校に送り，それを学校にいる教員が要約筆記を行ってタブレットPCに文字情報として視覚をつうじて情報を伝えた事例や，児童生徒が感想を手話で表現したものを録画して，それを見ながら文章に書き起こすなどのICTを工夫して用いることで支援につながっている点はそのまま，実際に自分が活用したり他の用途にも転用などをして生かしていけると考えました．その際，意識することとして，聴覚の補助とする手段，視覚的な情報の獲得，学習・コミュニケーションの支援，それぞれの教科の授業内容を支援する手段などの活用の方法の仕方を意識して活用法を模索し，用いることもまた重要であると感じ，今からでもそのような活用できそうなものを日常生活のなかで意識し，探せるものだと思いました． |

＊この【聴覚】レポートは、7月31日(月) までにCLEに提出して下さい。

＊「社会福祉施設5日体験」が実施できないための代替課題【視覚：全員用】は、8月31日(木) までにCLEに提出して下さい。

＊未提出者および内容不備の者は、「介護等体験代替措置完了証明書」の発行がされませんので、くれぐれも気をつけてください。